

夢と生きる力を育む教育環境の整備

- 質の高い教育と様々な課題を抱える子どもたちへの対応を充実させるため、教員が心と時間にゆとりをもって子どもに関わることができる教育環境を整える。
- 教員不足が大きな課題となる中で、より優秀な人材を教員として確保するため、教職員が笑顔で働ける職場環境を実現する。

【提案・要望先】文部科学省

1. 提案・要望内容

(1) 優秀で多様な人材の確保

- 教職員が安心して休暇・休業等の制度を利用できる職場体制を実現するための定数改善
- 勤務実態に見合った処遇を可能とする給与制度の実現
- 新たな初任者(新採教員)支援の仕組みの構築
- 副校長・教頭マネジメント支援員の配置拡充

(2) 新しい時代の学びの環境整備

- 少人数学級編制拡充のための定数改善
(中学校および高等学校における35人学級編制の実現)
- 小学校における教科担任制を一層推進するための専科教員の配置拡充
- 食育充実のための共同調理場における栄養教諭の配置基準の改善
- 学校図書館の利活用推進に向けた学校司書配置に係る地財措置の拡充

(3) 中学校部活動の地域連携・地域移行における地域の実情に応じた支援

2. 提案・要望の理由

(1) 優秀で多様な人材の確保

- 効果的で質の高い教育活動を行うためには、より優秀な人材の確保が不可欠である。そのため、教職員が安心して休暇・休業制度を利用できるよう定数を改善し、勤務実態に見合った処遇となる給与制度の実現に加え、不安を抱く初任者への人的支援の体制構築が必要である。また、働き方改革を加速させるために、多忙な状況下にある副校長・教頭の負担軽減を図るマネジメント支援員の拡充が必要である。

(2) 新しい時代の学びの環境整備

- 児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、少人数学級編制とそれに伴う人員配置の拡充や、小学校高学年における専科教員の配置を一層拡充することが求められる。加えて、子どもたちの健康課題等を踏まえ食育の重要性が高まっていることから栄養教諭の配置の充実を図る必要がある。また、すべての子どもが本に親しめる滋賀まるごと「こども としょかん」の実現に向け、子どもにもっとも身近な学校図書館の機能充実を図るためには、専任の学校司書人材の全校への配置が必要である。

(3) 中学校部活動の地域連携・地域移行における地域の実情に応じた支援

- 地域連携・地域移行のための指導者等の人材や受け皿確保等に苦慮している状況である。取組推進のための財政措置と各競技団体等の関係者と連携した国レベルでの仕組みづくりの充実をお願いしたい。

(本県の取組状況と課題)

(1)優秀で多様な人材の確保

(2)新しい時代の学びの環境整備

本県は、不登校やいじめ、学力、体力の向上、特別支援教育などの課題を総合的に解決するために、少人数学級編制を小中学校全学年で実施するとともに、個に応じた習熟度別学習指導の取組を進め、一定の教育効果を挙げている。しかし、教育課題は複雑化・多様化し、働き方改革を進めているものの、依然として教職員一人当たりの超過勤務時間は高止まりの状況。また、新規採用者数が増え、育休取得者も増えてきているが、補充者がなかなか見つからない状況。現状克服のためには、一層の定数改善や加配の充実を図るとともに、優秀な人材を確保していくため、勤務の実態に見合った処遇改善が求められる。

教職員が安心して休暇・休業等の制度を利用できる職場体制実現には定数改善が必要

右の定数改善例のとおり実現すると、例えば12学級規模だと担任外は6名(教頭含む)の配置となり、教員一人当たりの持ち時数(週)3時間程度が軽減

標準 学級数	1	3	5	6	7	11	14	21	30	36
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	2	4			10	13	20	29	35	
【本県配置基準】 学級担任以外の 教員数(教頭含む)	0	1	1	2	2	2	3 5 4	4	4	4 5 6
【定数改善例】 学級担任以外の 教員数(教頭含む)	0	2	3	4	5	6	7	8	9	10

勤務実態に見合った処遇改善が求められる

一例として本県教員の勤務実態から教職調整額を試算

- 教職調整額4%の根拠
→S41年度文部省「教員勤務状況調査」の1週間の平均超過勤務時間より算出
(小中学校平均超過勤務時間約1.77時間)
- 超過勤務時間は高止まりの状況
本県公立学校における令和5年度教員一人当たりの1週間の平均時間外在校等時間＝約9.6時間

